



▲町公式LINE



▲オープンチャット



冬 は西川町にとって大変な季節と
思っていました。楽しく何をするか考
えると、人も集まり、報道も増えるのだな
と感じています。今回のテーマは「雪」。

■対話会、講演の機会をいただき、民間や市町村から依頼がたくさん！

昨年の睦合、間沢、入間、水沢、本道寺、大井沢に続き、今年に入り、吉川、海味、沼山、網取、岩根沢の皆さまと対話会させていただきました。やはり対話会は、皆さまの思いや心配していることを直接把握し自分事に行える、また皆さまの特技やすっぴんなどをお聞きできて、ワクワクして元気ができます。網取区のいきいきクラブに参加することを決めたりと、お誘いいただけ嬉しです！

また、内閣官房、熊本県、西村山地区歯科医師会、山形県宅建協会からの講師依頼もあつたりと、町政に注目いただいていることを嬉しく思います。

■最近、嬉しかったこと

①西川町ゲートボール大会に伺いました。笑顔で白熱した、真剣勝負を見て、心が温まりました。優勝した小山チーム、準優勝の岩根沢チーム、おめでとうございませう。
②マイナンバーカード交付率が、全国で12位となりました。やればあ
できる！ことを



し、作業を楽しくしている姿を見て、役場職員も町民の皆さまとの交流を重ね、一度、福岡に戻った学生が再び町に来てくれました。さらに、それが報道されたことで、これを見た山形市の建設会社が除雪ボランティアにお越しくださいました。こんな動きにつながるとは思いませんでした。やってみたいと何が起るかわかりません！



(4) 気象庁への要請は却下されるも「かくれ豪雪・日本一」で報道！

月山志津温泉は、日本一の豪雪地で有名な酸ヶ湯を超える豪雪と言われながら、日本一でないのは、気象庁の観測地点がなかったためです。気象台長に、観測地点の移設などを要望しましたが、「気温・雨量などの過去の観測データもあり安易に移設できない」という回答でした。しかし、これまでの広報が功を奏し、テレビ局が次々と当町を訪問してくれています！



役場職員も気づいてくれたと思います。

■テーマは「雪」

西川町の除雪は、きれいに除雪されており、自信をもっているものだ改めて感じています。夜明け前からの作業、大変な中、ありがとうございました。

(1) 高齢者向け除雪支援！支援内容を拡大する方向で見直します！

高齢者向け除雪支援制度は、私の就任前から縮小することが決まっていました。
①補助上限：制限なし↓10万円まで
②対象：65歳以上の方がお住まいで、所得税非課税世帯↓住民税非課税世帯
このような制限をしたのは、昨年度、補助の上限を示さなかったため、不正の疑いのある事案がありました。これを機に現在の制度を変更したと聞いています。
しかし、支援を受けられない方が増えたという意見を多数いただきました。早速、担当課と話し合い、来年度からは、不正請求を防ぎながら、「除雪できない」をできるだけ多く支援できるように見直しを図ります。声を上げてくださり、ありがとうございます。

②東武トップツアーズ(株)内定者26名が豪雪地を研修地に！
連携協定の証として、大手旅行会社・東武トップツアーズ(株)(東京都)内定者研修を西川町で4日間開催。この動きを役場だけでなく、月山志津温泉、海味第3町内会、ドリームクラブさんと取り組みました。内定者はお揃いの黄色いジャンパーに身を包み、雪旅籠の制作支援、海味での除雪支援をした。

(2)東武トップツアーズ(株)内定者26名が豪雪地を研修地に！
連携協定の証として、大手旅行会社・東武トップツアーズ(株)(東京都)内定者研修を西川町で4日間開催。この動きを役場だけでなく、月山志津温泉、海味第3町内会、ドリームクラブさんと取り組みました。内定者はお揃いの黄色いジャンパーに身を包み、雪旅籠の制作支援、海味での除雪支援をした。

00度の豪雪サウナツアーも120名の定員がほぼ完売し、豪雪を活かした観光商品として人を呼び込めることも確認できました！

(5) 小学6年生のすっぴんが、間沢スキー場で実現！

年末、西川小6年生より「人が減って元気がなくならないよう、雪像をつくって町を盛り上げたい」との話をいただきました。それを実現に動いたのが、保護者を中心集まった「すっぴんが実現委員会」。その会と役場職員、小学校職員、地域おこし協力隊へつなぎ、さまざまな方々の協力を得て、間沢スキー場に、そり滑りコースやトロボやガッさんの雪像、台湾の方々の来日を歓迎する雪像が誕生！子供たちにとって思い出深いものとなっただけでなく、「まずやってみる！」の前向きな意識とそれに町民が呼応した結果です。間沢スキー場を訪れた台湾師範大学OBの皆さまも感激！人は、自分のためにどれだけ時間を割いてくれたか、どれだけ気にかけてくれたかに感動するのだから、愚直に「利他」の精神で取り組んでいこうと誓いました。



(6) 雪像ガッさんや灯りで元気な町に！

18年目を迎える月山志津温泉の雪旅籠の

チームで行いました。町側も内定者に感謝状の贈呈、お見送りなどを行い、ドリームクラブさんに納豆汁などを振舞っていただきました。みんなの思いが伝わり、研修に駆け付けた百木田社長は「来年も必ず実施する」と約束いただきました。また、「狙い通り、雪旅籠制作や除雪を通じてチームプレイの実践ができました。おかげさまで『旅行業は感動を創出できるやりがいのある仕事』を内定者が体感できました。」とのレターもいただきました。この町には、ご紹介したい方がたくさんいます！徐々に、この動きに町民の皆さまを巻き込んでいきたいです。



(3)除雪をする地域おこしインターン生43名が西川町に！
「除雪をするために西川に来てくれる人を募集します！」という政策を掲げたとき、懐疑的な意見も寄せられました。しかし、公募した結果、地域おこし協力隊の短期(2週間)インターン生として、全国から43名が応募。福島・金山町から来た即戦力もおりますが、ほとんどの方が除雪初心者です。しか

灯り、今年は、金・土・日・祝日はだれでも楽しむことができます。国道を通る方々に対してCASEや役場の有志が中心となって、睦合公園にガッさんや、国道沿いに灯りを灯す活動を行い、冬でも元気な町だぞ！とPRしています！



このように、雪を活かす！と前向きにとらえれば、人やお金を呼び込むほか、町民の皆さまも楽しむこともできるのでないでしょうか？当然、ご苦労されている方には支援が必要です。来年度は、除雪支援を拡大する方向で見直し、今年度の動きのほか、雪を売ることも挑戦してみたいと思います！
また、町職員も徐々に意識が変わり、町のおもてなしに感動して、西川のために何かしたい！という方がほとんどという状況は、「誇り」であり「光」です。

